

教育相談に続いて

1学期に「教育相談」についてご案内しました。『教育相談』は、

- ちょっとした気になることも学校とご家庭とで共有し、お子さんを共に育てる「共育」の視点で『お子さんが一番輝ける手立て』を考えることができる場
- お子さんをよりよく『理解』し、その子のもっている「強み」や「頑張っているところ」にも目を向けて、一緒にお子さんの成長のためになることを考えていける場

という紹介をさせていただきました。

今回は、検査についてご紹介したいと思います。【検査】と聞くと、『教育相談』よりもぐっとハードルが高く感じることと思います。しかし、さまざまな検査は、教育相談と同じように、子どもの理解のためにあるものです。

具体的には、子どもの**特性**を知り、その子がどう感じるか、その子の行動の理由を理解する中で、その子にどうかかわっていくのがより良い支援につながるのかを考えていきます。そのために、〈発達検査〉や〈知能検査〉など、特性に応じた様々なものがあります。

【特性】とは・・・その子の個性の延長線上にあるものです。個性というと、その子の性格、その子らしさ、と思いきや、思い浮かべると、個性の延長線上にありながらも、日常生活を営んでいく上で、その子が「**困り感**」を抱く**レベル**のものと捉えてお話をしていきたいと思っています。その子が生き生きと暮らしていくためには、【特性】を理解した上での子育てや教育的な支援が必要です。育て方やしつけの問題ではないのです。

防ぎたいのは「二次障害」です

特性を理解されないまま成長していくと、周囲の人の対応などに傷つき、自尊心が育まれないなど、心の面や行動の面でいわゆる「問題行動」が起きてしまうことがあります。【特性】のために、周りから叱られたり、非難されたりすることが多くなることがあります。

このような状況が長く続くと、心のバランスを崩し、「自分はダメな人間だ」「だれも認めてくれない」などとの思いから、劣等感や孤立感が強まり、「周りの大人を信用しない」「親や教師など周りの大人に反抗的な態度をとる」ケースもあります。これが『二次障害』です。

二次障害がおこると、本来の特性への対応ができにくくなってしまいます。二次障害がおこらないようにするためには、周りの大人がその子の特性に早く

子育ての悪循環と二次障害

毎日、感情的にしまわれたり、注意されたりすることばかり



気づき、適切に対応をしていくことが何より大切です。



「自分は認められている」「大切にされている」と感じながら、安心して育ってほしいのです。そのために必要に応じて、検査という方法もあります。

検査は、その子の【特性】の理解のためにあります

検査には、

○発達検査 ○知能検査 ○特性に応じた検査 など様々なものがあります。

それらも教育相談と同じでお子さんを共に育てる「共育」の視点で『お子さんが一番輝ける手立て』を客観的に理解し、より具体的に考えるためのものです。

「〇〇障害」「〇〇傾向」などラベリングすることが目的ではありません。

お子さんをよりよく『理解』し、その子のもっている「強み」や「頑張っているところ」にも目を向けて、一緒にお子さんの成長のためになることを理解するきっかけ、手段となるものが検査です。

○たとえば・・・

お子さんの困り感がどこにあるのか分かれば、学校生活においてこれまでと違った対応をして、お子さんが過ごしやすい環境を整えることができます。

聴く力が弱くても見る力を生かせば

・・・『強みである見る力を生かして、視覚的にわかりやすいものを』

『見本をなるべく近いところに置く』など

見て覚えるのが苦手でもゆっくりやればできるなら

・・・『手順や活動の順序をていねいに』

『焦らせない（板書の負担を減らし、プリントを配布する）』など

「その子のもっている「強み」を生かして、一緒に工夫を考えていきましょう！」と話し合うために、検査があります。



Q 相談は、学校以外でもできます。検査は、専門機関で受けられます

A より専門的な相談を受けたい方は、以下のようなところでもできます。

○帯広市子育て支援課：こども発達相談室

○社会医療法人北斗病院

○道立緑ヶ丘病院

○帯広児童相談所

○道立特別支援教育センター（巡回教育相談）など

お子さんについて、学習や生活、家庭の様子などで困っていること、心配・不安、気になっていること等がありましたら、担任の先生にでも、特別支援コーディネーター（増子・清水・平野）にでも構いません。いつでも、どうぞ声をかけてください。栄小学校 36-4873